

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
中日本航空専門学校		昭和57年4月1日	安藤 弘治		〒501-3924 岐阜県関市迫間字吉田洞1577-5 (電話) 0575-24-2521		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人神野学園		昭和40年2月18日	山田 弘幸		〒460-0001 名古屋市東区泉1丁目23番37号 (電話) 052-971-6161		
目的	本校は、教育基本法、学校教育法及び航空関連法規に従い、航空に関する専門の知識及び技術を教授し、併せて豊かな人間性を涵養し、航空業界を始めとする各種産業界に有用な実践力に富む人材を輩出することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		航空生産科		平成22年11月29日 文部科学省告示	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2670	1380	60	1230	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		147人		8人	18人	26人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価基準は、100～80点を優、79点～70点を良、69点～60点を可、60点未満を不可とし、優良可を合格とし、不可を不合格とする。 評価方法は、筆記試験または、レポート、実技試験、成果物等により行う		
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月10日～8月26日(一斉) 各々の教育スケジュールに応じて前後の期間を休暇期間として設定。 ■冬季:12月25日～1月6日 ■春季:4月1日～4月6日			卒業・進級条件	学則第6章第20条 別紙第1-1に定める教育課程の科目を履修し、卒業に必要な時数を修得した者に対し、校長は部科長会の議を経て卒業を認定する。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談、保護者面談、三者面談等			課外活動	■課外活動の種類 航専祭、スポーツ大会、校外研修(企業見学等) ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 航空機および航空機関連部品メーカー ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成29年度卒業者に関する平成30年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等	3次元CAD利用技術者 生産士 有機溶剤作業主任者 ガス溶接技能者 非破壊検査技術者 実用英語技能検定 TOEIC		
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成29年4月1日時点において 在学者 165名 平成30年3月31日時点において 在学者 158名 ■中途退学の主な理由 進路変更、健康上の理由、経済上の理由など ■中退防止のための取組 担任制、臨床心理士によるカウンセリング対応、保護者会			■中退率 4.2%	(平成29年4月1日入学者を含む) (平成30年3月31日卒業者を含む)		
ホームページ	URL: http://www.cna.ac.jp/						

※1・・・「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいう。(「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。)

※2・・・「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。(「学校基本調査」の定義による。)

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行ない、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業関係者などの外部役員と中日本航空専門学校で意見交換を行い、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中満 悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	1年	①
重松 則夫	朝日航洋株式会社 航空事業本部東日本航空支社 副部長	1年	③
中山 良博	川崎重工業株式会社 航空宇宙カンパニー 技術本部 技術開発本部 材料技術課 課長	1年	③
杉山 誉	ANA中部空港株式会社 総務部 人事課 課長	1年	③
安藤 弘治	中日本航空専門学校 校長	1年	校長
亀井 裕一	中日本航空専門学校 副校長	1年	学校職員
小林 泰広	中日本航空専門学校 事務局長	1年	学校職員
浅井 隆司	中日本航空専門学校 学生部 部長	1年	学校職員
中村 寿志	中日本航空専門学校 航空整備科 学科長	1年	学校職員
三木 陽一郎	中日本航空専門学校 航空生産科 学科長	1年	学校職員
濱田 実	中日本航空専門学校 エアポートサービス科 学科長	1年	学校職員
幸地 隆	中日本航空専門学校 就職キャリア支援センター長	1年	学校職員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成30年7月24日

第2回 平成30年12月11日

*年2回開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本校で策定した教育課程について各委員の意見、見識を伺い、授業や今後の教育課程の編成に反映させている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育内容に関するノウハウや最新技術の情報、技術指導などを受けられる企業と連携して実践的な実習・演習等の授業を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

CAD設計や非破壊検査など実務を行っていた方に講師として来ていただき、より実践的な知識、技能を習得する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
CAD実習Ⅱ・Ⅲ	基本的な設計能力に加え、設計・製造現場で主流となっている3次元設計に取り組み、企業での実務に対応でき3次元CAD設計能力を習得する。また、航空機特有の設計用語、図面作成上のルールを学習し、航空機図面の作図、読図の基本技術や、締結構造の設計手法、航空機部品の設計手法についての基礎知識を習得する。	株式会社ロジックソリューションズ
検査工学ⅠB・ⅡB	超音波探傷試験の理論と実技を学習し、非破壊検査協会のレベル1技術者試験、レベル2技術者試験の合格を目標とする。	有限会社グローバル検査

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

現在担当している教育又は将来担当する教育に関する知識、技術、技能の習得・向上や授業改善、学生指導などに関する研修を組織的に行い教員の資質の向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

航空関連企業や各種関連企業、各種関連団体が主催する研修に参加し、専攻分野における知識や技術を習得している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

本学園主催 FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修や平成30年3月に担任指導力向上研修等を実施した。
一般財団法人職業教育・キャリア教育財団岐阜県支部委員会主催 教員研修 等に参加した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

適宜、航空関連企業や各種関連企業、各種関連団体が主催する研修に参加し、専攻分野における知識や技術を習得する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

本学園主催 FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修(法人本部にてテーマを設定して研修を行う)
一般財団法人職業教育・キャリア教育財団岐阜県支部委員会主催 教員研修 等に参加し指導力の向上を図る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、個別に取り組み状況を説明し、聞き取り調査を行い活かす

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※評価項目詳細については別紙自己評価報告書に記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動その他の学校運営の状況に係る自己点検・自己評価報告書に基づき、学校運営が適正に行われているかを評価いただき、各委員の意見、見識を伺い、今後の学校運営に反映させている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
中満 悦郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長	1年	企業等委員
今井 信治	教育後援会 理事	1年	学校外部団体
酒井 雅敏	田原みらいづくり協議会 顧問	1年	企業等委員
中橋 佳彦	株式会社ニューテンサン 取締役工場長	1年	企業等委員
江口 健治郎	岐阜県立岐阜工業高等学校 校長	1年	企業等委員
安藤 弘治	中日本航空専門学校 校長	1年	校長
亀井 裕一	中日本航空専門学校 副校長	1年	学校職員
小林 泰広	中日本航空専門学校 事務局長	1年	学校職員
浅井 隆司	中日本航空専門学校 学生部 部長	1年	学校職員
中村 寿志	中日本航空専門学校 航空整備科学科長	1年	学校職員
三木 陽一郎	中日本航空専門学校 航空生産科学科長	1年	学校職員
濱田 実	中日本航空専門学校 エアポートサービス科学科長	1年	学校職員
幸地 隆	中日本航空専門学校 就職キャリア支援センター長	1年	学校職員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて毎年10月ごろ公表

<http://www.cna.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育及び学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について自己評価を行うとともに、保護者、地域住民、関連団体等により構成された委員による学校関係者評価委員会において公表し、自己評価について客観性・納得性を高める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・人材育成
(2) 各学科等の教育	教育活動・教育環境
(3) 教職員	学校運営・教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援・学生の受入れ募集
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令等の遵守・学校関係者評価報告
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	法令等の遵守・社会貢献・地域貢献

※評価項目詳細については別紙自己評価報告書に記載。

(3) 情報提供方法

ホームページにて毎年10月ごろ公表

<http://www.cna.ac.jp/>

授業科目等の概要

工業専門課程 航空生産科 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間学Ⅰ	企業が求めている人材は、専門知識・技術・資格を修得しているのみでなく、社会人としての常識とマナーを身につけた人間性豊かな人間である。本校の教育理念「技術者たる前に良き人間たれ」に基づき、しっかりした行動規範を持ち、社会常識、一般常識のある人間を育成する。	1通	20	1	○			○		○		
○			数学Ⅰ	航空生産技術に必要な数学に関する基礎知識を習得することを目的として、数式・関数・指数・対数・三角関数・微分、積分等についてそれぞれの基礎を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			物理Ⅰ	航空生産技術に必要な物理に関する基礎知識を習得することを目的として、力学・運動・波・等について、それぞれの基礎を学ぶ。	1通	60	4	○			○		○		
○			スキルアップ基礎	就職活動対策の第一歩として、SPI問題を正確に解く基本的能力を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
○			英語AⅠ-1	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている。中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			英語AⅠ-2	企業に就職する際に求められる資格の一つとして重要視されている。中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			英語BⅠ-1	TOEICは企業では英語力を客観的に証明する指標・基準として活用されている。日常的なシーンで、コミュニケーション英語能力を身につけることを目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			英語BⅠ-2	身近なシーンからビジネスまで幅広い場面でのコミュニケーション英語能力を身につけ、就職活動において自分の英語力をアピールできる能力を身につけることを目指す。	1後	30	2	○			○			○	
○			機械設計・製図	JIS基準にもとづく製図法、すなわち図面を正しく作成する基本技術、図面を正しく理解する基本技術を習得する。	1前	60	1	△			○	○		○	
○			CAD実習Ⅰ	CADの基礎知識と基本操作を「AutoCAD」というソフトウェアを使って習得する。1年次の終わりには、「CAD利用技術者」の資格取得を目標とする。	1通	120	3				○	○		○	
○			航空工学ⅠA	航空機について図解や説明により一般的な事項、機体のメカニズム、運航のメカニズム、および航空機荷重等についての基本的事項を習得する。	1前	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

工業専門課程 航空生産科 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			航空工学ⅠB	航空機構造、材料について、主要な構造の様式、適用材料についての基本的事項を習得する。	1前	30	2	○			○	○			
○			航空工学ⅠC	航空機構造について、主要な構造の様式、具体的な構造、構造強度試験についての基本的事項を習得する。	1後	30	2	○			○	○			
○			航空工学ⅠD	航空機構造の接合技術について、接着、機械的接合、溶接の基本的事項を習得する。また、各接合技術の設計、解析への応用等についても基本的事項を習得する。	1前	30	2	○			○	○			
○			航空工学ⅠE	航空機構造の適用が拡大されている複合材料について、その概要、力学特性、成形法、品質保証、接合技術、構造設計についての基本的事項を習得する。	1後	30	2	○			○	○			
○			航空宇宙材料学	航空機・宇宙機の機体構造材料を中心に、金属材料、非金属材料についての基本事項を習得する。そして材料選定基準、防食管理についての基本事項を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
○			宇宙工学	宇宙科学、通信、放送、気象、GPS、地球観測および宇宙基地における活動など、宇宙は社会と密接な関係を持ち、生活、社会活動にとって必要不可欠なものとなってきている。宇宙工学は広範囲で専門性も高いことから、ここでは全般の基礎知識を習得する。	1前	30	2	○			○	○			
○			品質保証・検査工学	航空機の安全を確保する一環として、技術要求等を満足していることを確認するための航空機に関わる品質保証・検査工学について基本事項を習得する。	1前	30	2	○			○		○		
○			基本実習ⅠA	基本実習に用いる種々な工具の名称、取扱い、主な計測機器の取扱い及び基本工作のうち締結法等を習得する。また、構成部および航空機加工・組立技術の基本的事項を習得する。	1前	60	1	△		○	○		○		
○			基本実習ⅠB	航空機に使用されているケーブルの取扱いについて学び、さらにベンチ作業、成形法、リベットについての基礎知識と基本技術を習得する。	1後	60	1	△		○	○		○		
○			金属工作Ⅰ	航空機の機体を構成する金属部品について、その製造方法の基本事項を習得する。	1後	30	2	○			○	○			
○			人間学Ⅱ	就職に関するキャリア教育を主とする。まず、就職活動を成功に導くための心構えを持つことの大切さを知り、就職決定までの流れを理解する。そして、自己分析と企業研究によって、自らの目指す方向を定め、履歴書やエントリーシートの具体的な書き方を学ぶ。また、校外講師による講演会、奉仕活動に参加する。	2通	20	1	○			○	○			

授業科目等の概要

工業専門課程 航空生産科 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スキルアップセミナー	就職活動対策として、SPI問題および一般常識問題を、限られた時間内で正確に解く力を高め、実戦力を習得する。	2通	60	4	○			○	○			
○			英語AⅡ-1	英検演習Ⅱに引き続き、中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	2前	30	2	○			○		○		
○			英語AⅡ-2	英検演習Ⅱに引き続き、中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	2後	30	2	○			○		○		
○			英語BⅡ-1	グローバル化が進む現在、英語力はもはや必須スキルのひとつとなりつつあります。国際社会に通用する英語によるコミュニケーション力をスコアで評価するTOEICは企業では昇級・昇格や海外派遣など英語力を客観的に証明する指標・基準として活用されています。まずは日常的なシーンで、コミュニケーション英語能力を身につけることを目指す。	2前	30	2	○			○			○	
○			英語BⅡ-2	TOEICを受験することでコミュニケーションに必要な英語の力を総合的に把握し、弱みや強みを確認し、バランスよく英語力を伸ばすためにTOEICを活用する。身近なシーンからビジネスまで幅広い場面でのコミュニケーション英語能力を身につけ、就職活動において自分の英語力をアピールできる能力を身につけることを目指す。	2後	30	2	○			○			○	
○			CAD実習Ⅱ	近年、設計製造企業では3次元CADを用いて、設計業務や生産技術業務を遂行できる人材が求められている。 1年次で修得したコンピュータを使用した基本的な設計能力に加え、設計・製造現場で主流となっている3次元設計に取り組み、企業での実務に対応できる3次元CAD設計能力を習得する。	2通	120	3			○	○		○		○
○			航空工学ⅡA	荷重・応力・強さ・変形等の基本的事項(その1)を理解し、自力で機械部品の強度計算ができる技術・知識を習得する。	2前	30	2	○			○		○		
○			航空工学ⅡB	荷重・応力・強さ・変形等の基本的事項(その2)を理解し、自力で機械部品の強度計算ができる技術・知識を習得する。	2後	30	2	○			○		○		
○			生産管理	生産管理に対する基本的な考え方と製造現場に即応出来る知識を習得する。その結果として生産士3級の資格を取得することを目的とする。	2通	90	6	○			○			○	
○			金属工作Ⅱ	NC加工用のCAD/CAMシステムについてCADからCAMへの展開知識を学び、CAMの中核をなすNCプログラムとはどのようなものか、及びNC加工はどのようにして行うかをCAMソフトウェア「Mastercam」とNC加工機(ワイス盤)を使用して習得する。	2通	120	3			○	○			○	
○			金属工作Ⅲ	1年次で学んだ基本的な知識、技能を応用して、主翼の様々な構造部品を製作し(金型を使用したハンドフォーミング、絞り成形機を使用した絞り加工などを学習)、これらの部品を航空機製造に特有のリベットを使用した組立作業を体験することにより、板金加工法、構造組立技術、シーリング作業など航空機組立技術に係る知識、技術を実習体験を通じて習得する。	2通	120	3			○	○				○

授業科目等の概要

工業専門課程 航空生産科 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			複合材工作Ⅱ	航空機の複合材成形加工で主流となっているプリプレグ素材による「オートクレーブ成形法」の基本技術を、座学と実習により習得する。	2通	120	3			○	○		○		
	○		検査工学ⅠA	放射線透過試験および渦電流探傷試験の理論と実技を学習し、JIS-Z-2305によるレベル1技術者の資格試験に合格させること、さらにレベル2の試験準備を目的とする。	2通	120	3			○	○			○	
	○		検査工学ⅠB	超音波試験の理論と実技を学習し、日本非破壊検査協会のレベル1技術者試験の合格を目標とし、さらにレベル2の試験準備を目的とする。	2通	120	3			○	○			○	○
○			人間学Ⅲ	社会人としてのマナーやリーダーシップを中心に常識ある人材の育成を図る。また、適宜就職関係の指導等も行う。	3通	20	1	○					○		
○			英語AⅢ-1	英語AⅡに引き続き、中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	3前	30	2	○			○			○	
○			英語AⅢ-2	英語AⅡに引き続き、中学、高校からの基礎的な英文法を再確認し、過去問、予想問題で資格取得を目指す。	3後	30	2	○			○			○	
○			英語BⅢ-1	英語の基礎知識を復習することにより、TOEICスコアのレベルアップを目指す。受験経験がない生徒においては、まず受験を促しながら、スコアアップする学びの過程において、リスニングとリーディングの実力を定着させる。	3前	30	2	○			○			○	
○			英語BⅢ-2	英語の社会性のある内容の文章を理解することができ、社会性のある話題についてやりとりができるまでのレベルアップを目指す。幅広い場面でのコミュニケーション英語能力を身につけ、就職先企業において自分の英語力をアピールできる能力を身につけることを目指す。	3後	30	2	○			○			○	
○			航空英語—1	航空機生産技術者として必要不可欠な英語力を身に付けることを目的とします。英語による航空機に係る専門用語、航空機の図面・説明書等の読解と説明発表ができる技術を習得する。	3前	30	2	○			○			○	
○			航空英語—2	航空機生産技術者として必要不可欠な英語力を身に付けることを目的とします。英語による航空機に係る専門用語、航空機の図面・説明書等の読解と説明発表ができる技術を習得する。	3後	30	2	○			○			○	
○			構造設計特論Ⅰ	航空機特有の設計用語、図面作成上のルールを学習し作図、読図方法を習得する。さらに航空機構造に使用される部品や組立品、荷重の種類を理解し設計の基本技術や解析理論を習得する。	3通	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

授業科目等の概要															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			構造設計特論Ⅱ	航空機の構造設計、構造強度計算法の基礎知識を習得する。	3通	60	2	○			○	○			
○			航空工学ⅢA	ジェット・エンジンについて、その種類、構造、燃料、推進原理、材料および加工法の基本技術および最新エンジンの動向を習得する。	3後	30	2	○			○	○			
○			航空工学ⅢB	ヘリコプタ(回転翼機)について、その飛行の原理やそれを実現するための機構、その長所と短所、主たる用途等について概要を学習する。また最新動向についても学習する。そしてヘリコプター全般に関わる基礎知識を習得する。	3前	30	2	○			○		○		
○			航空工学ⅢC	航空機は多くの技術を結集した数多くのシステムで構成されており、その中の機体システム(電気及び電子装備を含む)と関連する各種装備品についての基礎知識を習得する。	3前	30	2	○			○		○		
○			航空工学特論Ⅰ	航空機は、様々なプロセス(工程)を経て機体が完成されて後、エアラインや部隊にて運用される。そこで、これまでの学習の集大成として、技術、生産技術、組立技術、検査技術、整備技術など一連の航空機製造に関わるプロセスの基礎知識を習得する。また、航空機開発の歴史は、航空機重大事故を教訓の積み重ねとした「事故原因究明と是正及び設計変更の歴史」といわれる。そこで、歴史に残る様々な航空機事故の概要を知り、これらから安全設計や安全運用についての教訓を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○		
○			航空工学特論Ⅱ	航空機の荷重、性能、安定性、フラッタについて基礎知識を習得する。	3前	30	2	○			○	○			
○			宇宙工学特論	現在において通信・放送・気象・測位・地球観測さらには安全保障の分野で人工衛星はなくてはならないインフラである。そこで特に安全保障分野における衛星の応用について説明するとともに実際の小型の簡易衛星(GANSAT)に基づき人工衛星の設計製作の基礎を学ぶ。	3後	30	2	○			○	○			
○			生産システム	航空機産業における生産システム概要、生産に係る業務の基本知識を習得する。	3後	30	2	○			○	○			
○			基本実習ⅡA	基本技術Ⅰ等の技術知識、技能等をベースとして、航空機生産技術者として即戦力となるように、3年間の集大成として構造組立の基本技術を習得する。	3前	60	1			○	○		○		
○			基本実習ⅡB	基本技術Ⅰ等の技術知識、技能等をベースとして、航空機生産技術者として即戦力となるように、3年間の集大成として構造組立の基本技術を習得する。	3後	60	1			○	○		○		
	○		金属工作ⅣA	本科目では、機械加工システム実習ⅡでNC機械加工の基礎を実習した学生が、実務に対応するCAMソフトの基本知識とCAMIによるNCプログラム作成技術およびNCリング技術を習得する。	3通	120	3			○	○		○		

授業科目等の概要

工業専門課程 航空生産科 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		金属工作ⅣB	パーンズ社のRV-4軽飛行機の組立キットを使用して、担当教員の指導のもとに、学生が自らの手でその構造・艀装の組立技術を体験する授業である。本教科によって最新の板金加工法、構造組立、作業手順、修理方法等、企業に就職した時に即戦力として作業に従事できる為の基礎知識を習得する。	3通	120	3			○	○			○	
	○		CAD実習Ⅲ	航空機分野で活用されている3次元CADのCATIA V5を用いて、2年次の3次元モデル設計能力をベースに、更に高度なCAD設計能力を習得する。また、CADの資格試験(3次元CAD利用技術者)の資格取得を目標とする。	3通	120	3			○	○			○	○
	○		検査工学Ⅱ-A	本コースは2年次の放射線透過試験レベル1をベースに更に高度の理論と実技を学習しJIS-Z-2305によるレベル2技術者の資格試験に合格させることを目標とする。	3通	90	2			○	○			○	
	○		検査工学Ⅱ-B	本コースは2年次の超音波探傷試験レベル1をベースに更に高度の理論と実技を学習しJIS-Z-2305によるレベル2技術者の資格試験に合格させることを目標とする。	3通	90	2			○	○			○	○
合計				59科目							2670時数			119単位	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。